

令和6年12月24日公表

令和8(2026)年度フロンティア入試基本方針

1 募集人員・選抜日程

<フロンティア入試TypeI>

実施学部・学科等			募集人員※	
(1)	理学部 地球惑星科学科		5名	
(2)	医学部	医学科	5名	
(3)		保健学科	看護学専攻	7名
(4)			放射線技術科学専攻	7名
(5)			検査技術科学専攻	5名
(6)			理学療法学専攻	4名
(7)			作業療法学専攻	3名
(8)	歯学部		5名	
(9)	工学部	応用理工系学科(応用マテリアル工学コース)	4名	
(10)		環境社会工学科(社会基盤学コース)	4名	
(11)	水産学部		20名	
計			69名	

※ 選抜の結果、合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は本学が実施する一般選抜(学部別入試の前期日程又は後期日程)の募集人員に加えます。

事項	日時・期間
出願期間	令和7(2025)年9月11日(木) 令和7(2025)年9月17日(水)17時まで(期間内必着) ※ インターネット出願登録は令和7(2025)年9月1日(月)10時から事前登録が可能ですが、出願受付は上記期間に限ります。
受験番号通知	令和7(2025)年10月下旬 ※ 願書受理後、インターネット出願サイトを通じて受験番号を通知します。
第1次選考結果発表	令和7(2025)年10月28日(火)16時(予定)
受験票の発行	第1次選考結果発表後、10月29日(水)17時までに掲載 ※ 第1次選考合格者は、インターネット出願サイトで受験票(試験場情報、受験者心得等を含む。)がダウンロードできるようになります。第2次選考当日は、印刷した受験票を持参してください。
第2次選考実施日	令和7(2025)年11月16日(日)
第2次選考結果発表	令和7(2025)年12月9日(火)16時(予定)
大学入学共通テスト成績請求票提出期間	令和7(2025)年12月9日(火)から 令和7(2025)年12月15日(月)(期間内必着)
大学入学共通テスト実施日	令和8(2026)年1月17日(土)・18日(日)
最終合格者の発表	令和8(2026)年2月10日(火)16時(予定)
入学手続期間	令和8(2026)年2月10日(火)から 令和8(2026)年2月16日(月)17時まで(期間内必着)

<フロンティア入試Type II>

実施学部・学科等			募集人員*
(12)	理 学 部	数学科	13名
(13)		物理学科	14名
(14)		化学科	11名
(15)		生物科学科（高分子機能学専修分野）	3名
(16)	工 学 部	応用理工系学科（応用物理工学コース）	15名
(17)		機械知能工学科	5名
(18)		環境社会工学科（環境工学コース）	5名
計			66名

※ 選抜の結果、合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は本学が実施する一般選抜（後期日程）の募集人員に加えます。

事 項	日時・期間
出願期間	令和7（2025）年9月11日（木） 令和7（2025）年9月17日（水）17時まで（期間内必着） ※ インターネット出願登録は令和7（2025）年9月1日（月）10時から事前登録が可能ですが、出願受付は上記期間に限ります。
受験番号通知	令和7（2025）年10月下旬 ※ 願書受理後、インターネット出願サイトを通じて受験番号を通知します。
第1次選考結果発表	令和7（2025）年10月28日（火）16時（予定）
受験票の発行	第1次選考結果発表後、10月29日（水）17時までに掲載 ※ 第1次選考合格者は、インターネット出願サイトで受験票（試験場情報、受験者心得等を含む。）がダウンロードできるようになります。第2次選考当日は、印刷した受験票を持参してください。
第2次選考実施日	令和7（2025）年11月16日（日）
最終合格者の発表	令和7（2025）年12月9日（火）16時（予定）
入学手続期間	令和7（2025）年12月9日（火）から 令和7（2025）年12月15日（月）17時まで（期間内必着）

2 実施学部・学科等、募集人員、出願資格及び要件等

<フロンティア入試Type I >

(1) 理学部地球惑星科学科

【趣旨・目的】

現在の日本では、高校で「地学」を教えるところが少ないため、大学進学を目指す高校生の多くは地球惑星科学という学問領域を正しく理解していません。

そのため、興味のないまま地球惑星科学科に進学して学部教育でとまどう例も多くみられます。そこで、このフロンティア入試では、地球惑星科学の特性と可能性を十分に理解し、地球惑星科学を積極的に学ぶ強い意欲と資質を持った人材を選抜することを目的としています。

【フロンティア入試で求める学生像】

- ・地球や惑星の自然現象に興味を持ち、地球惑星科学を積極的に学びたい学生
- ・基礎学力があり、将来、この分野の研究者や技術者になりたいという志望を持つ学生
- ・地球と惑星の構成と進化を学ぶため、野外での調査や観察、観測、室内実験及び数値計算・解析等を積極的に行う学生

【募集学科、募集人員】

学 科	募 集 人 員
地球惑星科学科	5 名

※ 選抜の結果、合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は本学が実施する一般選抜（後期日程）の募集人員に加えます。

【出願資格・要件】

令和8(2026)年度大学入学共通テストの教科・科目のうち本学が指定した教科・科目（次頁の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を参照）をすべて受験する者で、次に掲げる資格及び要件に該当するもの

1. 資 格

次のいずれかの資格に該当すること。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を令和8(2026)年3月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき、令和7(2025)年4月から令和8(2026)年3月までに卒業又は卒業見込みの者
- (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を令和7(2025)年4月から令和8(2026)年3月までに修了又は修了見込みの者

2. 要 件

次のすべての要件に該当すること。

- (1) 高等学校等で「物理基礎・物理」又は「化学基礎・化学」を履修している者（理数科等にあつては、「理数物理」又は「理数化学」を履修している者）
※ 該当科目を学校設定科目で代替している場合は、その代替科目を履修している者を含みます。
- (2) 英語能力が、実用英語技能検定2級以上、もしくはTOEIC L&Rのスコアが600点以上である者
ただし、TOEIC L&Rについては令和5(2023)年10月1日以降に受験した試験のスコアのみ有効とします。
- (3) 合格した場合、入学を確約できる者

【選抜方法】

調査書、コンピテンシー評価書、自己推薦書、総合問題、面接及び大学入学共通テスト等の結果を総合して合格者を決定します。

第1次選考

調査書、コンピテンシー評価書、自己推薦書により選考を行います。

第2次選考

第1次選考に合格した者に対して、総合問題を課し、面接を行います。

- ・総合問題：科学的基礎知識、論理性、判断力を問う。
- ・面接：意欲、目的意識、論理的思考力を問う。

ただし、日本地学オリンピックにおける過去2年間の一次予選通過者で総合問題の免除を希望する者については、日本地学オリンピック一次予選の結果を総合問題の点数に換算します。

また、最終合格者の判定にあたっては、大学入学共通テストの結果を利用し、令和8(2026)年度大学入学共通テストで受験を要する教科・科目の得点の合計が、450点程度に達している者を最終合格者の対象として判定を行います（下記の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を併せて参照）。

【第1次選考および第2次選考の科目等と配点】

第1次選考		第2次選考	
調査書、自己推薦書	75点	総合問題又は日本地学オリンピック 一次予選の結果	75点
コンピテンシー評価書	25点		
		面接	25点

【大学入学共通テストの教科・科目と配点】

(1) 令和8(2026)年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目

教科名	科 目 名
数 学	「数学Ⅰ、数学A」、 「数学Ⅱ、数学B、数学C」
理 科	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から、「物理」又は「化学」を含む2科目選択
外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1科目選択

(2) 大学入学共通テストの配点

大学入学共通テストの成績は、最終合格者とするための判定にのみ用います（上記の【選抜方法】を参照）。

教科名	数 学	理 科	外国語	合 計
点 数	200点	200点	200点	600点

※ 外国語（英語）の配点にはリスニングの成績を含みます。ただし、リスニングを免除された者については、リーディング（100点満点）を200点満点に換算して利用します。

※※ 大学入学共通テスト本試験の平均点が過去の水準と比べて大幅に下がった科目について、得点調整を行った場合には、調整後の得点を利用します。

(2) 医学部医学科

【趣旨・目的】

医学部医学科で実施するフロンティア入試では、国際的なリーダーシップを担う医学研究者及び臨床医等を目指す高い志に溢れる学生を、学業成績とともに学業以外での活動や社会との交流経験等多くの観点で学生を評価することにより、本学で学ぶ意欲と動機に秀でた人材の選考を目的としています。

【フロンティア入試で求める学生像】

- ・基礎学力があり、医学を学ぶ意欲が旺盛で、医学研究者又は臨床医等として国際的に医学・医療、生命科学の実践及び発展に取り組む等、生涯を通じて学問的向上心にあふれる学生
- ・高い倫理観と強い責任感、そして敬虔な奉仕の精神を持ち、謙虚で高潔な使命感にあふれる学生
- ・幅広い視野と国際的な視点を持ち、自己研鑽の志にあふれる学生

【募集学科、募集人員】

学 科	募 集 人 員
医 学 科	5 名

※ 選抜の結果、合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は本学が実施する一般選抜（前期日程の学部別入試）の募集人員に加えます。

【出願資格・要件】

令和8(2026)年度大学入学共通テストの教科・科目のうち本学が指定した教科・科目（次頁の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を参照）をすべて受験する者で、次に掲げる資格及び要件に該当するもの

1. 資 格

次のいずれかの資格に該当すること。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を令和8(2026)年3月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき、令和7(2025)年4月から令和8(2026)年3月までに卒業又は卒業見込みの者
- (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を令和7(2025)年4月から令和8(2026)年3月までに修了又は修了見込みの者

2. 要 件

次のすべての要件に該当すること。

- (1) 高等学校等で「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」及び「生物基礎・生物」のうち、「物理基礎・物理」を含む2つを履修している者
(理数科等にあっては、「理数物理」、「理数化学」及び「理数生物」のうち、「理数物理」を含む2つを履修している者)

※ 該当科目を学校設定科目で代替している場合は、その代替科目を履修している者を含みます。

- (2) 高等学校等の学習成績概評がAの者
- (3) 合格した場合、入学を確約できる者

【選抜方法】

調査書、コンピテンシー評価書、自己推薦書、諸活動の記録、課題論文、面接及び大学入学共通テスト等の結果を総合して合格者を決定します。

第1次選考

調査書、コンピテンシー評価書により選考を行います。

第2次選考

第1次選考に合格した者に対して、課題論文を課し、面接を行います。

さらに、コンピテンシー評価書の結果も併せて総合評価します。

- ・課題論文：論理性、読解力、思考力、判断力等を問う。
- ・面接：個人面接（MMI（Multiple Mini - Interview）形式を含む。）を実施する。
自己推薦書、諸活動の記録等も参考として、意欲、目的意識、実行力、適性等を問う。さらに、医療における「研究」と「臨床」を包括的に踏まえて研鑽していきける、優れた資質・能力を問う。
- ・コンピテンシー評価書：
「学習活動」及び諸活動の記録について、医学部医学科が求める資質及び能力をもった人物を選抜するという観点から、評価する。

ただし、最終合格者の判定にあたっては、大学入学共通テストの結果を利用し、令和8（2026）年度大学入学共通テストで受験を要する教科・科目の得点の合計が、合格基準点（720点）以上である者を最終合格者の対象として判定を行います（下記の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を併せて参照）。

【第1次選考および第2次選考の科目等と配点】

第1次選考		第2次選考	
調査書	20点	課題論文	40点
コンピテンシー評価書	80点	面接、コンピテンシー評価書	60点

【大学入学共通テストの教科・科目と配点】

(1) 令和8（2026）年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目

教科名	科目名
国語	「国語」
地理歴史、 公民	「歴史総合、世界史探究」、「歴史総合、日本史探究」、「地理総合、地理探究」、「公共、倫理」、「公共、政治・経済」から1科目選択 ※2科目を受験している場合は、第1解答科目を利用します。 なお、第1解答科目で本学が指定する大学入学共通テストの受験を要する科目を受験しておらず、かつ、第2解答科目で本学の指定科目を受験している場合、第1解答科目の得点を0点として取り扱います。
数学	「数学Ⅰ、数学A」、「数学Ⅱ、数学B、数学C」
理科	「物理」を必須とし、「化学」又は「生物」から1科目選択
外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1科目選択

(2) 大学入学共通テストの配点

大学入学共通テストの成績は、最終合格者とするための判定にのみ用います（上記の【選抜方法】を参照）。

教科名	国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	合計
点数	200点	100点	200点	200点	200点	900点

※ 外国語（英語）の配点にはリスニングの成績を含みます。ただし、リスニングを免除された者については、リーディング（100点満点）を200点満点に換算して利用します。

※※ 大学入学共通テスト本試験の平均点が過去の水準と比べて大幅に下がった科目について、得点調整を行った場合には、調整後の得点を利用します。

(3) 医学部保健学科看護学専攻

【趣旨・目的】

看護学は、さまざまな環境のもとで生活している人々が、その健康状態において生命力を高め、持てる力を十分に発揮できるための援助について科学的に探求しています。

看護学専攻では、社会の多様なニーズに対応できる高度な看護実践能力と国際的視野を持った看護職を育成することを目的としています。フロンティア入試では、学業成績とともに多様な個性・能力・資質・適性・目的意識や意欲と看護への志向を重視しています。

【フロンティア入試で求める学生像】

- ・看護学を学ぶ基礎学力があり、論理的な思考と豊かな表現力のある学生
- ・看護と人に対して関心が高く、探求心が旺盛である学生
- ・グループの中で協調的に行動することができ、リーダーシップを発揮できる学生
- ・受け身でなく、自ら目的や課題を設定して学ぶ意欲のある学生

【募集学科等、募集人員】

学 科	専 攻	募 集 人 員
保 健 学 科	看 護 学 専 攻	7 名

※ 選抜の結果、合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は本学が実施する一般選抜（前期日程の学部別入試）の募集人員に加えます。

【出願資格・要件】

令和8(2026)年度大学入学共通テストの教科・科目のうち本学が指定した教科・科目（次頁の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を参照）をすべて受験する者で、次に掲げる資格及び要件に該当するもの

1. 資 格

次のいずれかの資格に該当すること。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を令和8(2026)年3月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき、令和7(2025)年4月から令和8(2026)年3月までに卒業又は卒業見込みの者
- (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を令和7(2025)年4月から令和8(2026)年3月までに修了又は修了見込みの者

2. 要 件

合格した場合、入学を確約できる者

【選抜方法】

調査書、コンピテンシー評価書、自己推薦書（諸活動において特記すべき事項があれば記入すること）、面接及び大学入学共通テスト等の結果を総合して合格者を決定します。

第1次選考

調査書、コンピテンシー評価書、自己推薦書により選考を行います。

第2次選考

第1次選考に合格した者に対して、面接を行います。

- ・面 接：意欲、目的意識、論理性、協調性、適性、基礎学力等を問う。

ただし、最終合格者の判定にあたっては、大学入学共通テストの結果を利用し、令和8(2026)年度大学入学共通テストで受験を要する教科・科目の得点の合計が600点程度に達し

ている者を最終合格者の対象として判定を行います（下記の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を併せて参照）。

【第1次選考および第2次選考の科目等と配点】

第1次選考		第2次選考	
調査書 コンピテンシー評価書	50点	面接	100点
自己推薦書	50点		

【大学入学共通テストの教科・科目と配点】

(1) 令和8(2026)年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目

教科名	科 目 名
国 語	「国語」
地理歴史、 公民	「歴史総合、世界史探究」、「歴史総合、日本史探究」、「地理総合、地理探究」、「公共、倫理」、「公共、政治・経済」から1科目選択 ※2科目を受験している場合は、第1解答科目を利用します。 なお、第1解答科目で本学が指定する大学入学共通テストの受験を要する科目を受験しておらず、かつ、第2解答科目で本学の指定科目を受験している場合、第1解答科目の得点を0点として取り扱います。
数 学	「数学Ⅰ、数学A」、「数学Ⅱ、数学B、数学C」
理 科	「物理」、「化学」、「生物」から2科目選択
外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1科目選択

(2) 大学入学共通テストの配点

大学入学共通テストの成績は、最終合格者とするための判定にのみ用います（上記の【選抜方法】を参照）。

教科名	国 語	地理歴史・公民	数 学	理 科	外国語	合 計
点 数	200点	100点	200点	200点	200点	900点

※ 外国語（英語）の配点にはリスニングの成績を含みます。ただし、リスニングを免除された者については、リーディング（100点満点）を200点満点に換算して利用します。

※※ 大学入学共通テスト本試験の平均点が過去の水準と比べて大幅に下がった科目について、得点調整を行った場合には、調整後の得点を利用します。

(4) 医学部保健学科放射線技術科学専攻

【趣旨・目的】

医学部保健学科放射線技術科学専攻では、診療放射線技師という医療専門職及び保健科学分野の研究者を養成しています。人と向き合う保健科学の探求を通じて、高度な医療技術に加え、高い倫理観や豊かな人間性を備える人材を育成しています。学業成績とともに課外活動や社会交流経験等、多くの観点で学生を評価することにより、本学で学ぶ意欲と動機に秀でた人材の選考を目的としています。

【フロンティア入試で求める学生像】

- ・放射線技術科学を学ぶ基礎学力があり、論理的な思考と豊かな表現力のある学生
- ・医療に対して関心が高く、探求心が旺盛である学生
- ・何事にも積極的に取り組む志が強く、特に高校時代にリーダーシップを発揮し、成果をあげた学生
- ・好奇心旺盛で、自らを啓発する志が強く、学業以外において成果をあげた学生

【募集学科等、募集人員】

学 科	専 攻	募 集 人 員
保 健 学 科	放射線技術科学専攻	7 名

※ 選抜の結果、合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は本学が実施する一般選抜（前期日程の学部別入試）の募集人員に加えます。

【出願資格・要件】

令和 8 (2026) 年度大学入学共通テストの教科・科目のうち本学が指定した教科・科目（次頁の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を参照）をすべて受験する者で、次に掲げる資格及び要件に該当するもの

1. 資 格

次のいずれかの資格に該当すること。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を令和 8 (2026) 年 3 月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第 93 条第 3 項の規定に基づき、令和 7 (2025) 年 4 月から令和 8 (2026) 年 3 月までに卒業又は卒業見込みの者
- (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を令和 7 (2025) 年 4 月から令和 8 (2026) 年 3 月までに修了又は修了見込みの者

2. 要 件

次のすべての要件に該当すること。

- (1) 高等学校等で、「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」及び「生物基礎・生物」のうち、「物理基礎・物理」を含む 2 つを履修している者
(理数科等にあっては、「理数物理」又は「理数化学」及び「理数生物」のうち、「理数物理」を履修している者)

※ 該当科目を学校設定科目で代替している場合は、その代替科目を履修している者を含みます。

- (2) 合格した場合、入学を確約できる者

【選抜方法】

調査書、コンピテンシー評価書、自己推薦書（諸活動において特記すべき事項があれば記入すること）、面接及び大学入学共通テスト等の結果を総合して合格者を決定します。

第 1 次選考

調査書、コンピテンシー評価書、自己推薦書により選考を行います。

第2次選考

第1次選考に合格した者に対して、面接を行います。

- ・面接：意欲、目的意識、論理性、協調性、適性、基礎学力等を問う。

ただし、最終合格者の判定にあたっては、大学入学共通テストの結果を利用し、令和8(2026)年度大学入学共通テストで受験を要する教科・科目の得点の合計が600点程度に達している者を最終合格者の対象として判定を行います(下記の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を併せて参照)。

【第1次選考および第2次選考の科目等と配点】

第1次選考		第2次選考	
調査書 自己推薦書	50点	面接	100点
コンピテンシー評価書	50点		

【大学入学共通テストの教科・科目と配点】

(1) 令和8(2026)年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目

教科名	科目名
国語	「国語」
地理歴史、 公民	「歴史総合、世界史探究」、「歴史総合、日本史探究」、「地理総合、地理探究」、「公共、倫理」、「公共、政治・経済」から1科目選択 ※2科目を受験している場合は、第1解答科目を利用します。 なお、第1解答科目で本学が指定する大学入学共通テストの受験を要する科目を受験しておらず、かつ、第2解答科目で本学の指定科目を受験している場合、第1解答科目の得点を0点として取り扱います。
数学	「数学Ⅰ、数学A」、「数学Ⅱ、数学B、数学C」
理科	「物理」を必須とし、「化学」又は「生物」から1科目選択
外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1科目選択

(2) 大学入学共通テストの配点

大学入学共通テストの成績は、最終合格者とするための判定にのみ用います(上記の【選抜方法】を参照)。

教科名	国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	合計
点数	200点	100点	200点	200点	200点	900点

※ 外国語(英語)の配点にはリスニングの成績を含みます。ただし、リスニングを免除された者については、リーディング(100点満点)を200点満点に換算して利用します。

※※ 大学入学共通テスト本試験の平均点が過去の水準と比べて大幅に下がった科目について、得点調整を行った場合には、調整後の得点を利用します。

(5) 医学部保健学科検査技術科学専攻

【趣旨・目的】

検査技術科学は、人体から医学的な情報を有効に検出する検査法とその分析結果について研究する学問であり、病気の診断及び治療方針の決定を科学的に行うために不可欠な分野となります。

検査技術科学専攻は、多岐にわたる臨床検査法を習得し、検査技術科学の分野で、指導的な立場につく臨床検査技師を養成するとともに、教育者・研究者として医学・医療の発展に寄与できる高度な知識と国際的視野を持った人材の育成を目指しています。

フロンティア入試の目的は、優れた学業成績とともに検査技術科学を通じて医療・社会へ貢献する積極的な意欲・志向を有する個性あふれる人材を選ぶことにあります。

【フロンティア入試で求める学生像】

- ・検査技術科学を学ぶ基礎学力があり、論理的な思考と十分なコミュニケーション能力を有する学生
- ・検査技術科学を通じて医療・社会に貢献できる人材を目指すことを強く志向し、日々、学び、努力できる学生
- ・受動的な知識の受け入れのみならず、自ら目的や課題を設定して学ぶことができる学生
- ・検査技術科学に関わる新たな発見、発明や技術の開発に向け、リーダーシップをとる意欲を生涯持ち続けることができる学生

【募集学科等、募集人員】

学 科	専 攻	募 集 人 員
保 健 学 科	検査技術科学専攻	5 名

※ 選抜の結果、合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は本学が実施する一般選抜（前期日程の学部別入試）の募集人員に加えます。

【出願資格・要件】

令和8(2026)年度大学入学共通テストの教科・科目のうち本学が指定した教科・科目（次頁の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を参照）をすべて受験する者で、次に掲げる資格及び要件に該当するもの

1. 資 格

次のいずれかの資格に該当すること。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を令和8(2026)年3月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき、令和7(2025)年4月から令和8(2026)年3月までに卒業又は卒業見込みの者
- (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を令和7(2025)年4月から令和8(2026)年3月までに修了又は修了見込みの者

2. 要 件

合格した場合、入学を確約できる者

【選抜方法】

調査書、コンピテンシー評価書、自己推薦書（諸活動において特記すべき事項があれば記入すること）、面接及び大学入学共通テスト等の結果を総合して合格者を決定します。

第1次選考

調査書、コンピテンシー評価書、自己推薦書により選考を行います。

第2次選考

第1次選考に合格した者に対して、面接を行います。

- ・面接：意欲、目的意識、論理性、協調性、適性、基礎学力等を問う。

ただし、最終合格者の判定にあたっては、大学入学共通テストの結果を利用し、令和8(2026)年度大学入学共通テストで受験を要する教科・科目の得点の合計が600点程度に達している者を最終合格者の対象として判定を行います（下記の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を併せて参照）。

【第1次選考および第2次選考の科目等と配点】

第1次選考		第2次選考	
調査書 コンピテンシー評価書	50点	面接	100点
自己推薦書	50点		

【大学入学共通テストの教科・科目と配点】

(1) 令和8(2026)年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目

教科名	科目名
国語	「国語」
地理歴史、 公民	「歴史総合、世界史探究」、「歴史総合、日本史探究」、「地理総合、地理探究」、「公共、倫理」、「公共、政治・経済」から1科目選択 ※2科目を受験している場合は、第1解答科目を利用します。 なお、第1解答科目で本学が指定する大学入学共通テストの受験を要する科目を受験しておらず、かつ、第2解答科目で本学の指定科目を受験している場合、第1解答科目の得点を0点として取り扱います。
数学	「数学Ⅰ、数学A」、「数学Ⅱ、数学B、数学C」
理科	「化学」を必須とし、「物理」又は「生物」から1科目選択
外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1科目選択

(2) 大学入学共通テストの配点

大学入学共通テストの成績は、最終合格者とするための判定にのみ用います（上記の【選抜方法】を参照）。

教科名	国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	合計
点数	200点	100点	200点	200点	200点	900点

- ※ 外国語（英語）の配点にはリスニングの成績を含みます。ただし、リスニングを免除された者については、リーディング（100点満点）を200点満点に換算して利用します。
- ※※ 大学入学共通テスト本試験の平均点が過去の水準と比べて大幅に下がった科目について、得点調整を行った場合には、調整後の得点を利用します。

(6) 医学部保健学科理学療法学専攻

【趣旨・目的】

理学療法学専攻で実施するフロンティア入試では、国際的なリーダーシップを担う理学療法士及びび理学療法学研究者を目指す高い志に溢れる学生を、学業成績とともに学業以外での活動や社会活動等多くの観点で学生を評価し、本専攻で学ぶ意欲と動機に秀でた将来に渡る自己研鑽力に富んだ人材を選考することを目的としています。

【フロンティア入試で求める学生像】

- ・ 理学療法学を学ぶ基礎学力があり、論理的な思考と豊かな表現力のある学生
- ・ 人の健康と障害に対して関心が高く、探求心が旺盛である学生
- ・ 受け身でなく、自ら目的や課題を設定して学び、生涯を通じて自己研鑽の志にあふれる学生
- ・ 幅広い視野と国際的な視点を持って協調的に行動し、リーダーシップを発揮できる学生

【募集学科等、募集人員】

学 科	専 攻	募 集 人 員
保 健 学 科	理学療法学専攻	4 名

※ 選抜の結果、合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は本学が実施する一般選抜（前期日程の学部別入試）の募集人員に加えます。

【出願資格・要件】

令和8(2026)年度大学入学共通テストの教科・科目のうち本学が指定した教科・科目（次頁の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を参照）をすべて受験する者で、次に掲げる資格及び要件に該当するもの

1. 資 格

次のいずれかの資格に該当すること。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を令和8(2026)年3月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき、令和7(2025)年4月から令和8(2026)年3月までに卒業又は卒業見込みの者
- (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を令和7(2025)年4月から令和8(2026)年3月までに修了又は修了見込みの者

2. 要 件

次のすべての要件に該当すること。

- (1) 高等学校等で、「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」及び「生物基礎・生物」のうち、2つを履修している者
(理数科等にあっては、「理数物理」、「理数化学」及び「理数生物」のうち、2つを履修している者)
※ 該当科目を学校設定科目で代替している場合は、その代替科目を履修している者を含みます。
- (2) 合格した場合、入学を確約できる者

【選抜方法】

調査書、コンピテンシー評価書、自己推薦書（諸活動において特記すべき事項があれば記入すること）、面接及び大学入学共通テスト等の結果を総合して合格者を決定します。

第1次選考

調査書、コンピテンシー評価書、自己推薦書により選考を行います。

第2次選考

第1次選考に合格した者に対して、面接を行います。

- ・面接：意欲、目的意識、論理性、協調性、適性、基礎学力等を問う。

ただし、最終合格者の判定にあたっては、大学入学共通テストの結果を利用し、令和8(2026)年度大学入学共通テストで受験を要する教科・科目の得点の合計が600点程度に達している者を最終合格者の対象として判定を行います（下記の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を併せて参照）。

【第1次選考および第2次選考の科目等と配点】

第1次選考		第2次選考	
調査書 コンピテンシー評価書	60点	面接	100点
自己推薦書	40点		

【大学入学共通テストの教科・科目と配点】

(1) 令和8(2026)年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目

教科名	科 目 名
国 語	「国語」
地理歴史、 公民	「歴史総合、世界史探究」、「歴史総合、日本史探究」、「地理総合、地理探究」、「公共、倫理」、「公共、政治・経済」から1科目選択 ※2科目を受験している場合は、第1解答科目を利用します。 なお、第1解答科目で本学が指定する大学入学共通テストの受験を要する科目を受験しておらず、かつ、第2解答科目で本学の指定科目を受験している場合、第1解答科目の得点を0点として取り扱います。
数 学	「数学Ⅰ、数学A」、「数学Ⅱ、数学B、数学C」
理 科	「物理」、「化学」又は「生物」から2科目選択
外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1科目選択

(2) 大学入学共通テストの配点

大学入学共通テストの成績は、最終合格者とするための判定にのみ用います（上記の【選抜方法】を参照）。

教科名	国 語	地理歴史・公民	数 学	理 科	外国語	合 計
点 数	200点	100点	200点	200点	200点	900点

※ 外国語（英語）の配点にはリスニングの成績を含みます。ただし、リスニングを免除された者については、リーディング（100点満点）を200点満点に換算して利用します。

※※ 大学入学共通テスト本試験の平均点が過去の水準と比べて大幅に下がった科目について、得点調整を行った場合には、調整後の得点を利用します。

(7) 医学部保健学科作業療法学専攻

【趣旨・目的】

作業療法学は、人々の健康と幸福を促進するため、対象となる人々にとって価値を持つ生活行為に焦点を当て、リハビリテーションとしてそれらの治療、指導、援助を科学的に追求する学問です。そのため作業療法学専攻では、基礎知識や論理的・独創的思考とともに、豊かな人間性を備えた人材の育成を目指しています。

フロンティア入試では、作業療法学への高い学習意欲と熱意をもつ学生を、学業成績とともに、諸活動における成果や経験、学業以外での活動、社会活動の豊富さによって評価することにより、協調性や指導力を持つ人材を選抜することを目的としています。

【フロンティア入試で求める学生像】

医学部保健学科で学習するに十分な学力を持つ以下の学生

- ・人の健康について関心を持ち、深く探求する学生
- ・チャレンジ精神が旺盛な学生
- ・学業以外に対して良く努力して成果を上げた経験を持つ学生
- ・人を尊重することができ、協調性を有する学生

【募集学科等、募集人員】

学 科	専 攻	募 集 人 員
保 健 学 科	作業療法学専攻	3 名

※ 選抜の結果、合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は本学が実施する一般選抜（前期日程の学部別入試）の募集人員に加えます。

【出願資格・要件】

令和 8 (2026) 年度大学入学共通テストの教科・科目のうち本学が指定した教科・科目（次頁の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を参照）をすべて受験する者で、次に掲げる資格及び要件に該当するもの

1. 資 格

次のいずれかの資格に該当すること。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を令和 8 (2026) 年 3 月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第 3 項の規定に基づき、令和 7 (2025) 年 4 月から令和 8 (2026) 年 3 月までに卒業又は卒業見込みの者
- (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を令和 7 (2025) 年 4 月から令和 8 (2026) 年 3 月までに修了又は修了見込みの者

2. 要 件

合格した場合、入学を確約できる者

【選抜方法】

調査書、コンピテンシー評価書、自己推薦書（諸活動において特記すべき事項があれば記入すること）、面接及び大学入学共通テスト等の結果を総合して合格者を決定します。

第 1 次選考

調査書、コンピテンシー評価書、自己推薦書により選考を行います。

第 2 次選考

第 1 次選考に合格した者に対して、面接を行います。

- ・面 接：意欲、目的意識、論理性、協調性、適性、基礎学力等を問う。

ただし、最終合格者の判定にあたっては、大学入学共通テストの結果を利用し、令和8(2026)年度大学入学共通テストで受験を要する教科・科目の得点の合計が600点程度に達している者を最終合格者の対象として判定を行います(下記の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を併せて参照)。

【第1次選考および第2次選考の科目等と配点】

第1次選考		第2次選考	
調査書	30点	面接	100点
コンピテンシー評価書	30点		
自己推薦書	40点		

【大学入学共通テストの教科・科目と配点】

(1) 令和8(2026)年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目

教科名	科 目 名
国 語	「国語」
地理歴史、 公民	「歴史総合、世界史探究」、「歴史総合、日本史探究」、「地理総合、地理探究」、「公共、倫理」、「公共、政治・経済」から1科目選択 ※2科目を受験している場合は、第1解答科目を利用します。 なお、第1解答科目で本学が指定する大学入学共通テストの受験を要する科目を受験しておらず、かつ、第2解答科目で本学の指定科目を受験している場合、第1解答科目の得点を0点として取り扱います。
数 学	「数学Ⅰ、数学A」、「数学Ⅱ、数学B、数学C」
理 科	「物理」、「化学」、「生物」から2科目選択
外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1科目選択

(2) 大学入学共通テストの配点

大学入学共通テストの成績は、最終合格者とするための判定にのみ用います(上記の【選抜方法】を参照)。

教科名	国 語	地理歴史・公民	数 学	理 科	外国語	合 計
点 数	200点	100点	200点	200点	200点	900点

※ 外国語(英語)の配点にはリスニングの成績を含みます。ただし、リスニングを免除された者については、リーディング(100点満点)を200点満点に換算して利用します。

※※ 大学入学共通テスト本試験の平均点が過去の水準と比べて大幅に下がった科目について、得点調整を行った場合には、調整後の得点を利用します。

(8) 歯学部

【趣旨・目的】

歯学部で実施するフロンティア入試では、本当に歯学、歯科医療を専門として学びたいという学生を、学業成績とともに学業以外での活動、社会との交流経験の豊富さによって評価します。「この成績なら、この辺の大学・学部に」ではなく、個性のある、様々な意味で個人的魅力のある学生を選ぶことを目的としています。

【フロンティア入試で求める学生像】

- ・基礎学力があり、歯学、歯科医療を学びたいという意欲が旺盛で、将来、大学院に進学する等、学問的向上心の強い学生
- ・何事にも積極的に取り組む意志が強く、特に高校時代にリーダーシップを発揮し、成果をあげた経験を持つ学生
- ・好奇心旺盛で、自らを啓発する志が強く、特に高校時代に受験勉強一辺倒でなく、学業以外に対してもよく努力をして相当の成果をあげている学生

【募集学科・募集人員】

学 科	募 集 人 員
歯 学 科	5 名

※ 選抜の結果、合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は本学が実施する一般選抜（前期日程の学部別入試）の募集人員に加えます。

【出願資格・要件】

令和 8 (2026) 年度大学入学共通テストの教科・科目のうち本学が指定した教科・科目（次頁の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を参照）をすべて受験する者で、次に掲げる資格及び要件に該当するもの

1. 資 格

次のいずれかの資格に該当すること。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を令和 8 (2026) 年 3 月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第 3 項の規定に基づき、令和 7 (2025) 年 4 月から令和 8 (2026) 年 3 月までに卒業又は卒業見込みの者
- (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を令和 7 (2025) 年 4 月から令和 8 (2026) 年 3 月までに修了又は修了見込みの者

2. 要 件

次のすべての要件に該当すること。

- (1) 高等学校等で「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」及び「生物基礎・生物」のうちから 2 つを履修している者
(理数科等にあっては、「理数物理」、「理数化学」及び「理数生物」のうち、2 つを履修している者)
※ 該当科目を学校設定科目で代替している場合は、その代替科目を履修している者を含みます。
- (2) 高等学校等の学習成績概評が A の者
- (3) 合格した場合、入学を確約できる者

【選抜方法】

調査書、コンピテンシー評価書、課題論文、面接及び大学入学共通テスト等の結果を総合して合格者を決定します。

第1次選考

調査書、コンピテンシー評価書により選考を行います。

第2次選考

第1次選考に合格した者に対して、課題論文を課し、面接を行います。

- ・課題論文：読解力、論理的思考力を問う。
- ・面接：積極性、表現力、論理性、協調性、適性を問う。

ただし、最終合格者の判定にあたっては、大学入学共通テストの結果を利用し、令和8(2026)年度大学入学共通テストで受験を要する教科・科目の得点の合計が670点程度に達している者を最終合格者の対象として判定を行います(下記の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を併せて参照)。

【第1次選考および第2次選考の科目等と配点】

第1次選考		第2次選考	
調査書	20点	課題論文	50点
コンピテンシー評価書	80点	面接	50点

【大学入学共通テストの教科・科目と配点】

(1) 令和8(2026)年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目

教科名	科 目 名
国 語	「国語」
地理歴史、 公民	「歴史総合、世界史探究」、「歴史総合、日本史探究」、「地理総合、地理探究」、「公共、倫理」、「公共、政治・経済」から1科目選択 ※2科目を受験している場合は、第1解答科目を利用します。 なお、第1解答科目で本学が指定する大学入学共通テストの受験を要する科目を受験しておらず、かつ、第2解答科目で本学の指定科目を受験している場合、第1解答科目の得点を0点として取り扱います。
数 学	「数学Ⅰ、数学A」、「数学Ⅱ、数学B、数学C」
理 科	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から2科目選択
外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1科目選択

(2) 大学入学共通テストの配点

大学入学共通テストの成績は、最終合格者とするための判定にのみ用います(上記の【選抜方法】を参照)。

教科名	国 語	地理歴史・公民	数 学	理 科	外国語	合 計
点 数	200点	100点	200点	200点	200点	900点

※ 外国語(英語)の配点にはリスニングの成績を含みます。ただし、リスニングを免除された者については、リーディング(100点満点)を200点満点に換算して利用します。

※※ 大学入学共通テスト本試験の平均点が過去の水準と比べて大幅に下がった科目について、得点調整を行った場合には、調整後の得点を利用します。

(9) 工学部応用理工系学科（応用マテリアル工学コース）

【趣旨・目的】

この世界を構成するすべての物質は周期表に記載された元素から成り立っています。この元素の集合体である結晶の構造をよく理解し、緻密に制御することにより無限の可能性を秘めた素材であるマテリアルが作られます。パソコンの中の電子部品から航空機までを構成するマテリアルは、世界中のさまざまな環境において人間が生活を営むために必要不可欠です。応用マテリアル工学コースの実施するフロンティア入試では、こうした元素を制御するマテリアル工学に興味をもち、将来、国際的リーダーとなる技術者・研究者を目指す学生を、学力試験の結果のみならず学問への意欲・熱意を評価し選抜することを目的としています。

【フロンティア入試で求める学生像】

- ・ 元素の性質、結晶の構造などに興味を持ち、本コースで積極的に学び、新しいマテリアル・材料をつくることを希望する学生
- ・ 基礎学力があり、将来さらに大学院まで進学し、マテリアル分野の研究者や技術者として国際的なリーダーになりたいという志望を持つ学生
- ・ マテリアル研究の実践及び発展に取り組むため、自ら積極的に実験・観察を行う学生
- ・ 国際性豊かな応用マテリアル工学コースの中で、人を尊重することができ、留学生を含む他の学生と協調的に活動できる学生

【募集学科、募集人員】

学 科	募 集 人 員
応用理工系学科（応用マテリアル工学コース）	4 名

※ 選抜の結果、合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は本学が実施する一般選抜（後期日程）の募集人員に加えます。

【出願資格・要件】

令和8（2026）年度大学入学共通テストの教科・科目のうち本学が指定した教科・科目（次頁の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を参照）をすべて受験する者で、次に掲げる資格及び要件に該当するもの

1. 資 格

次のいずれかの資格に該当すること。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を令和8（2026）年3月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき、令和7（2025）年4月から令和8（2026）年3月までに卒業又は卒業見込みの者
- (2) 高等学校又は中等教育学校を令和7（2025）年3月に卒業した者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき、令和6（2024）年4月から令和7（2025）年3月までに卒業した者
- (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を令和6（2024）年4月から令和8（2026）年3月までに修了又は修了見込みの者

2. 要 件

次のすべての要件に該当すること。

- (1) 高等学校等で、「物理」、「化学」、「生物」及び「地学」のうち、「物理」又は「化学」を含む2つを履修している者
（理数科等にあつては、「理数物理」、「理数化学」、「理数生物」及び「理数地学」のうち、「理数物理」又は「理数化学」を含む2つを履修している者）

※ 該当科目を学校設定科目で代替している場合は、その代替科目を履修している者を含みます。

※ ただし、当該科目の履修が不可能な者については、当該科目を履修した者と同程度の学力を有する者とし、これに関する判断を、在籍する高等学校等の教諭が別途文書

で述べてください。

- (2) 十分な基礎学力がある者
- (3) 合格した場合、入学を確約できる者

【選抜方法】

調査書、コンピテンシー評価書、自己推薦書、諸活動の記録、課題論文、面接及び大学入学共通テスト等の結果を総合して合格者を決定します。

第1次選考

調査書、コンピテンシー評価書、自己推薦書、諸活動の記録により選考を行います。

第2次選考

第1次選考に合格した者に対して、課題論文を課し、面接を行います。

- ・課題論文と面接：正確な科学的知識、論理的思考力、洞察力、作文能力、意欲、目的意識、実行力、適性を問う。

ただし、最終合格者の判定にあたっては、大学入学共通テストの結果を利用し、令和8(2026)年度大学入学共通テストで受験を要する教科・科目の得点の合計が520点程度に達している者を最終合格者の対象として判定を行います（下記の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を併せて参照）。

【第1次選考および第2次選考の科目等と配点】

第1次選考		第2次選考	
調査書	60点	課題論文 面接	100点
コンピテンシー評価書	40点		
自己推薦書			
諸活動の記録			

【大学入学共通テストの教科・科目と配点】

- (1) 令和8(2026)年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目

教科名	科目名
数 学	「数学Ⅰ、数学A」、「数学Ⅱ、数学B、数学C」
理 科	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から「物理」又は「化学」を含む2科目選択
外国語	「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「韓国語」から1科目選択

- (2) 大学入学共通テストの配点

大学入学共通テストの成績は、最終合格者とするための判定にのみ用います（上記の【選抜方法】を参照）。

教科名	数 学	理 科	外国語	合 計
点 数	200点	200点×2	200点	800点

※ 外国語（英語）の配点にはリスニングの成績を含みます。ただし、リスニングを免除された者については、リーディング（100点満点）を200点満点に換算して利用します。

※※ 大学入学共通テスト本試験の平均点が過去の水準と比べて大幅に下がった科目について、得点調整を行った場合には、調整後の得点を利用します。

(10) 工学部環境社会工学科 (社会基盤学コース)

【趣旨・目的】

社会基盤学は、持続可能な未来社会の実現のために、「社会基盤施設」・「環境」・「持続可能性」・「人」を系として捉えた総合工学の基礎を学ぶ学問です。社会基盤に関係する幅広い工学分野において、将来、国際的に活躍することのできる人材の育成を目指して教育を行っています。このため、当社会基盤学コースは、世界に眼を向け、大規模国際建設プロジェクト、多発する自然災害への対策などについて、純粋で旺盛な好奇心とチャレンジスピリットを持った学生の入学を希望しています。

十分な基礎学力を有し、社会基盤に関する総合技術を探求しようとする目的意識と積極性を持った学生を対象とし、フロンティア入試を実施します。

【フロンティア入試で求める学生像】

- ・本コースで積極的に学び、社会基盤の計画、設計、管理などを通して環境保全、安全・安心な社会の創造などに貢献する意欲のある学生
- ・地域・国内のみならず地球全体というグローバルな視点から、社会基盤学の分野の研究者や技術者の国際的なリーダーとして活躍したいという希望を持つ学生
- ・社会基盤学に関する研究の実践及び発展に取り組むため、自ら積極的に実験、解析、現地調査等が行える学生
- ・国際性豊かな社会基盤学コースの中で、人を尊重することができ、留学生を含む他の学生と協調的に活動できる学生

【募集学科、募集人員】

学 科	募 集 人 員
環境社会工学科 (社会基盤学コース)	4 名

※ 選抜の結果、合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は本学が実施する一般選抜(後期日程)の募集人員に加えます。

【出願資格・要件】

令和8(2026)年度大学入学共通テストの教科・科目のうち本学が指定した教科・科目(次頁の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を参照)をすべて受験する者で、次に掲げる資格及び要件に該当するもの

1. 資 格

次のいずれかの資格に該当すること。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を令和8(2026)年3月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき、令和7(2025)年4月から令和8(2026)年3月までに卒業又は卒業見込みの者
- (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を令和7(2025)年4月から令和8(2026)年3月までに修了又は修了見込みの者

2. 要 件

次のすべての要件に該当すること。

- (1) 英語能力が、以下のいずれかの試験のカッコ内のスコア等以上である者
TOEIC L&R(550点)、TOEFL-iBT(42点)、TOEFL-ITP(460点)、実用英語技能検定(2級)

ただし、TOEIC L&R、TOEFL-iBT、TOEFL-ITPは令和5(2023)年10月1日以降に受験した試験のスコア等のみ有効とし、TOEFL-iBTについては、My Bestスコアは利用せず、Test Dateスコアのみを利用します。

- (2) 合格した場合、入学を確約できる者

【選抜方法】

調査書、コンピテンシー評価書、自己推薦書、英語能力、諸活動の記録、課題論文、面接及び大学入学共通テスト等の結果を総合して合格者を決定します。

第1次選考

調査書、コンピテンシー評価書、自己推薦書、英語能力、諸活動の記録により選考を行います。

ただし、英語能力は、TOEIC L&R、TOEFL-iBT、TOEFL-ITP、実用英語技能検定の試験結果を選考に利用します。

第2次選考

第1次選考に合格した者に対して、課題論文を課し、面接を行います。

- ・課題論文：正確な科学的知識、論理的思考力、洞察力、作文能力を問う。
- ・面接：意欲、目的意識、実行力、適性を問う。

ただし、最終合格者の判定にあたっては、大学入学共通テストの結果を利用し、令和8(2026)年度大学入学共通テストで受験を要する教科・科目の得点の合計が210点程度に達している者を最終合格者の対象として判定を行います（下記の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を併せて参照）。

【第1次選考および第2次選考の科目等と配点】

第1次選考		第2次選考	
調査書	50点	課題論文	50点
コンピテンシー評価書 自己推薦書 英語能力 諸活動の記録	50点	面接	50点

【大学入学共通テストの教科・科目と配点】

(1) 令和8(2026)年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目

教科名	科目名
数 学	「数学Ⅰ、数学A」、 「数学Ⅱ、数学B、数学C」
理 科	「物理」

(2) 大学入学共通テストの配点

大学入学共通テストの成績は、最終合格者とするための判定にのみ用います（上記の【選抜方法】を参照）。

教科名	数 学	理 科	合 計
点 数	200点	100点	300点

※ 大学入学共通テスト本試験の平均点が過去の水準と比べて大幅に下がった科目について、得点調整を行った場合には、調整後の得点を利用します。

(11) 水産学部

【趣旨・目的】

水産学部は亜寒帯水圏を中心としたモニタリングにより水圏環境と水圏資源に関する知識を蓄積し、様々な問題を解決し、人類の将来に貢献するために日夜努力をつづけています。

水圏に関する様々な分野をカバーしている水産学部は、海洋・水産の分野で日本や世界をリードすることを目指して「水圏に強い関心を持ち、深く探究したい人材」を求めています。

しかし、一般選抜では、水圏にどの程度強い関心があるかを判断することは困難です。フロンティア入試によって、水圏に強い関心を持ち、将来、日本や世界をリードして人類・社会に貢献したいという人材を意欲・思考力・学力から総合的に判断します。

【フロンティア入試で求める学生像】

- ・海の物理現象や環境計測あるいは先端的生産技術を積極的に学び、持続可能な海洋生物資源の利用と保全を目指す研究者や技術者として、社会に貢献する意欲のある学生
- ・海洋生物の生態、生命現象、あるいは食料・バイオテクノロジー資源としての重要性を積極的に学び、海洋生物の持続的生産や高度な活用を目指す研究者や技術者として、社会に貢献する意欲のある学生
- ・海洋・水産・環境分野におけるグローバルな課題を積極的に学び、それらの課題解決に向け国際的に活躍する意欲のある学生

【募集学科、募集人員】

学 科	募集人員
海 洋 生 物 科 学 科	20 名
海 洋 資 源 科 学 科	
増 殖 生 命 科 学 科	
資 源 機 能 化 学 科	

※ 選抜の結果、合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は本学が実施する一般選抜（前期日程の学部別入試）の募集人員に加えます。

【出願資格・要件】

令和8(2026)年度大学入学共通テストの教科・科目のうち本学が指定した教科・科目（次頁の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を参照）をすべて受験する者で、次に掲げる資格及び要件に該当するもの

1. 資 格

次のいずれかの資格に該当すること。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を令和8(2026)年3月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき、令和7(2025)年4月から令和8(2026)年3月までに卒業又は卒業見込みの者
- (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を令和7(2025)年4月から令和8(2026)年3月までに修了又は修了見込みの者

2. 要 件

次のすべての要件に該当すること。

- (1) 高等学校等で「数学Ⅲ」を履修している者
(理数科等にあつては、「理数数学Ⅱ」を履修している者)
※ 該当科目を学校設定科目で代替している場合は、その代替科目を履修している者を含みます。
- (2) 高等学校等で「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」及び「生物基礎・生物」のうち

から2つを履修している者

(理数科等にあつては、「理数物理」、「理数化学」及び「理数生物」のうちから2つを履修している者)

※ 該当科目を学校設定科目で代替している場合は、その代替科目を履修している者を含みます。

(3) 合格した場合、入学を確約できる者

【選抜方法】

調査書、個人評価書、コンピテンシー評価書、自己推薦書、諸活動の記録、面接及び大学入学共通テスト等の結果を総合して合格者を決定します。

第1次選考

調査書、個人評価書、コンピテンシー評価書、自己推薦書、諸活動の記録により選考を行います。

第2次選考

第1次選考に合格した者に対して面接を行います。

- ・面接：論理的思考力、目的意識、積極性（意欲）、協調性、コミュニケーション能力等を問う。

ただし、最終合格者の判定にあつては、大学入学共通テストの結果を利用し、令和8(2026)年度大学入学共通テストで受験を要する教科・科目の得点の合計が280点程度に達している者を最終合格者の対象として判定を行います（下記の【大学入学共通テストの教科・科目と配点】を併せて参照）。

【第1次選考および第2次選考の科目等と配点】

第1次選考		第2次選考	
調査書 個人評価書 コンピテンシー評価書	50点	面接	100点
自己推薦書 諸活動の記録	50点		

【大学入学共通テストの教科・科目と配点】

(1) 令和8(2026)年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目

教科名	科目名
数 学・理 科	「数学Ⅰ、数学A」、「数学Ⅱ、数学B、数学C」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」の中から3つの科目を本学出願時に選択（出願後の変更はいかなる場合も認められません。）
外国語	「英語（リーディングのみ）」

(2) 大学入学共通テストの配点

大学入学共通テストの成績は、最終合格者とするための判定にのみ用います（上記の【選抜方法】を参照）。

教科名	数 学・理 科	外国語	合 計
点 数	300点	100点	400点

※ 外国語（英語）の配点については、リーディング（100点満点）の得点のみを利用します。

※※ 大学入学共通テスト本試験の平均点が過去の水準と比べて大幅に下がった科目について、得点調整を行った場合には、調整後の得点を利用します。

<フロンティア入試Type II>

(12) 理学部数学科

【趣旨・目的】

急速に変化する社会のなかで、今世の中に存在していない新しい方法論や考え方を生み出す力や、さらに新たに生まれる課題を見出し解決する力をもつ人材が強く求められています。将来社会や大学で新しい価値の創造を担うには、主体的な行動を起こす力や新しいものごとにチャレンジしていく強い意欲とともに、基礎的な学力や技能、思考力及び判断力を有していることが重要です。

本入試においては、このような観点に立ち、新しい時代を生き抜く素養を有し、北海道大学で学びたいという強い意志を持つ学生を選抜することを目的としています。

【フロンティア入試で求める学生像】

本学科で数学を学ぶために基盤となる能力や意欲を有し、さらに以下の項目のいずれかに該当する学生

- ・高い数学的能力を有する者
- ・優れた論理的思考力と理論の展開能力を有する者
- ・本学科の教育により優れた学修成果が見込まれる者

【募集学科、募集人員】

学 科	募 集 人 員
数 学 科	1 3 名

※ 選抜の結果、合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は本学が実施する一般選抜（後期日程）の募集人員に加えます。

【出願資格・要件】

次に掲げる資格及び要件に該当する者

1. 資 格

次のいずれかの資格に該当すること。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を令和8(2026)年3月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき、令和7(2025)年4月から令和8(2026)年3月までに卒業又は卒業見込みの者
- (2) 高等学校又は中等教育学校を令和7(2025)年3月に卒業した者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき、令和6(2024)年4月から令和7(2025)年3月までに卒業した者
- (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を令和6(2024)年4月から令和8(2026)年3月までに修了又は修了見込みの者

2. 要 件

次のすべての要件に該当すること。

- (1) 高等学校等で「数学Ⅲ」を履修している者
(理数科等にあつては、「理数数学Ⅱ」を履修している者)
※ 該当科目を学校設定科目で代替している場合は、その代替科目を履修している者を含みます。
※ 該当科目を履修した者と同等の学力を有していることを、在籍する（既卒者については卒業した）高等学校等が認め、個人評価書にその旨の記載がある者を含みます。
- (2) 合格した場合、入学を確約できる者

【選抜方法】

調査書、個人評価書、自己推薦書、適性試験及び面接の結果を総合して合格者を決定します。

第1次選考

調査書、個人評価書、自己推薦書により選考を行います。

第2次選考

第1次選考に合格した者に対して、適性試験を課し、面接を行います。

- ・適性試験：基礎的な知識及び技能の他、思考力及び判断力等を評価する。
適性試験では、前半（60分）で計算を主とする数学の基本問題、後半（120分）で数学の論述問題を課す。出題範囲は以下のとおりとする。

<共通問題>

科目	出題範囲
数 学 150点	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C (数学Aは「図形の性質」、「場合の数と確率」、数学Bは「数列」、数学Cは「ベクトル」、「平面上の曲線と複素数平面」とする。)

<選択問題>

科目	出題範囲
数 学 300点	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C (数学Aは「図形の性質」、「場合の数と確率」、数学Bは「数列」、数学Cは「ベクトル」、「平面上の曲線と複素数平面」とする。)

- ・面 接：数学的な考察力、論理的思考力、説明能力及び数学に関わる諸科学の修学への姿勢・意欲を評価する。

【第1次選考および第2次選考の科目等と配点】

第1次選考		第2次選考	
調査書 個人評価書	70点	適性試験	450点
自己推薦書	30点	面接	150点

【その他】

- ・入学後、1年次は総合教育部で学び、2年次進級時に理学部数学科に所属します。
- ・フロンティア入試に合格し、入学手続きをした者に対して課題等を課します。内容、提出方法等の詳細は、最終合格者発表後にお知らせします。
- ・フロンティア入試に合格し、入学手続きをした者は、入学時に必要となる基礎学力を身につけてもらうため、一般選抜（後期日程）理学部数学科の「大学入学共通テストの受験を要する教科・科目」の自己採点結果を提出してもらいます。提出方法等の詳細は、最終合格者発表後にお知らせします。

(13) 理学部物理学科

【趣旨・目的】

物理学は、自然科学において理由付けに用いられ、自然界を理解するのに必須の学問分野です。理学部物理学科においては、物理学に関係する幅広い分野において、将来、国際的に活躍することのできる人材の育成を目指して教育を行っています。知的好奇心豊かに物理学を学び、未知の現象の発見や解明に強い興味を持ち、物理学の研究を通じて新たな価値を創造する意欲のある学生を選抜することを目的としています。

【フロンティア入試で求める学生像】

- ・ 知的好奇心豊かで、将来物理学における研究をする意欲を持つ学生
- ・ 研究を遂行するために必要な物理学の基本的知識と思考法を修得している学生
- ・ 物理学に関する数学的導出法や実験による検証法に強い興味を持つ学生

【募集学科、募集人員】

学 科	募 集 人 員
物 理 学 科	1 4 名

※ 選抜の結果、合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は本学が実施する一般選抜（後期日程）の募集人員に加えます。

【出願資格・要件】

次に掲げる資格及び要件に該当する者

1. 資 格

次のいずれかの資格に該当すること。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を令和 8 (2026) 年 3 月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第 3 項の規定に基づき、令和 7 (2025) 年 4 月から令和 8 (2026) 年 3 月までに卒業又は卒業見込みの者
- (2) 高等学校又は中等教育学校を令和 7 (2025) 年 3 月に卒業した者及び学校教育法施行規則第93条第 3 項の規定に基づき、令和 6 (2024) 年 4 月から令和 7 (2025) 年 3 月までに卒業した者
- (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を令和 6 (2024) 年 4 月から令和 8 (2026) 年 3 月までに修了又は修了見込みの者

2. 要 件

次のすべての要件に該当すること。

- (1) 高等学校等で「数学Ⅲ」及び「物理基礎・物理」を履修している者
(理数科等にあっては、「理数数学Ⅱ」及び「理数物理」を履修している者)
※ 該当科目を学校設定科目で代替している場合は、その代替科目を履修している者を含みます。
※ 該当科目を履修した者と同等の学力を有していることを、在籍する（既卒者については卒業した）高等学校等が認め、個人評価書にその旨の記載がある者を含みます。
- (2) 以下のうち、いずれかの資格・検定試験の成績がCEFR B1レベル以上の者

資格・検定試験名称	備 考
ケンブリッジ英語検定	
実用英語技能検定	
GTEC	
IELTS (IELTS Onlineを含む)	令和 5 (2023) 年10月 1 日以降に受験した試験のスコアのみ有効
TOEFL-iBT (Home Editionを含む)	
TOEIC (L&R及びS&W)	

TEAP	令和6(2024)年4月1日以降に受験した試験のスコアのみ有効
TEAP CBT	
Duolingo English Test	

(3) 合格した場合、入学を確約できる者

【選抜方法】

調査書、個人評価書、自己推薦書、適性試験及び面接の結果を総合して合格者を決定します。

第1次選考

調査書、個人評価書、自己推薦書により選考を行います。

第2次選考

第1次選考に合格した者に対して、適性試験を課し、面接を行います。

- ・適性試験：基礎的な知識及び技能の他、思考力及び判断力等を評価する。
適性試験では、前半(60分)で計算を主とする数学の基本問題、後半(120分)で数学及び理科(物理・化学)の論述問題を課す。出題範囲は以下のとおりとする。

<共通問題>

科目	出題範囲
数 学 150点	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C (数学Aは「図形の性質」、「場合の数と確率」、数学Bは「数列」、数学Cは「ベクトル」、「平面上の曲線と複素数平面」とする。)

<選択問題>

科目	出題範囲
数 学 60点	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C (数学Aは「図形の性質」、「場合の数と確率」、数学Bは「数列」、数学Cは「ベクトル」、「平面上の曲線と複素数平面」とする。)
物 理 180点	物理基礎及び物理 (「力学」、「波動」、「熱」、「電磁気」)
化 学 60点	化学基礎及び化学

- ・面 接：主に物理の内容に関する議論を通して論理の展開、表現、会話力を評価する。

【第1次選考および第2次選考の科目等と配点】

第1次選考		第2次選考	
調査書 個人評価書	80点	適性試験	450点
自己推薦書	20点	面接	250点

(14) 理学部化学科

【趣旨・目的】

理学部化学科においては、化学の幅広い分野において、将来、国際的に活躍することのできる研究者の育成を目指した教育を行っています。このような観点から、十分な基礎学力を有することはもちろんですが、自然の摂理を探究しようとする目的意識と積極性を持った学生の入学を希望しています。特に、物理や数理的な思考を得意としながら化学を学ぶ意欲のある学生の入学を目的としてフロンティア入試を実施します。

【フロンティア入試で求める学生像】

- ・基礎学力があり、将来、大学院に進学し、化学の基礎研究者として積極的に社会に貢献する意欲のある学生
- ・受け身ではなく、自ら目的を設定して学ぶ意欲のある学生
- ・本学科の教育により優れた学修成果が見込まれる者

【募集学科、募集人員】

学 科	募 集 人 員
化 学 科	1 1 名

※ 選抜の結果、合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は本学が実施する一般選抜（後期日程）の募集人員に加えます。

【出願資格・要件】

次に掲げる資格及び要件に該当する者

1. 資 格

次のいずれかの資格に該当すること。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を令和 8 (2026) 年 3 月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第 3 項の規定に基づき、令和 7 (2025) 年 4 月から令和 8 (2026) 年 3 月までに卒業又は卒業見込みの者
- (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を令和 7 (2025) 年 4 月から令和 8 (2026) 年 3 月までに修了又は修了見込みの者

2. 要 件

次のすべての要件に該当すること。

- (1) 高等学校等で「化学基礎・化学」、「物理基礎・物理」及び「数学III」を履修している者
(理数科等にあつては、「理数化学」、「理数物理」及び「理数数学II」を履修している者)
※ 該当科目を学校設定科目で代替している場合は、その代替科目を履修している者を含みます。
- (2) 合格した場合、入学を確約できる者

【選抜方法】

調査書、個人評価書、自己推薦書、適性試験及び面接の結果を総合して合格者を決定します。

第 1 次選考

調査書、個人評価書、自己推薦書により選考を行います。

第2次選考

第1次選考に合格した者に対して、適性試験を課し、面接を行います。

- ・適性試験：基礎的な知識及び技能の他、思考力及び判断力等を評価する。

適性試験では、前半（60分）で計算を主とする数学の基本問題、後半（120分）で理科（物理・化学）の論述問題を課す。出題範囲は以下のとおりとする。

< 共通問題 >

科目	出題範囲
数 学 150点	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C (数学Aは「図形の性質」、「場合の数と確率」、数学Bは「数列」、数学Cは「ベクトル」、「平面上の曲線と複素数平面」とする。)

< 選択問題 >

科目	出題範囲
物 理 150点	物理基礎及び物理 (「力学」、「波動」、「熱」、「電磁気」)
化 学 150点	化学基礎及び化学

- ・面 接：化学に関する思考力と判断力、及びコミュニケーション能力を評価する。

【第1次選考および第2次選考の科目等と配点】

第1次選考		第2次選考	
調査書 個人評価書	70点	適性試験	450点
自己推薦書	30点	面接	100点

(15) 理学部生物科学科（高分子機能学専修分野）

【趣旨・目的】

急速に変化する社会のなかで、今世の中に存在していない新しい方法論や考え方を生み出す力や、さらに新たに生まれる課題を見出し解決する力をもつ人材が強く求められています。このような中、基礎的な学力や技能、思考と判断力が重要なことは言うまでもありませんが、これに加えて、主体的な行動を起こす力や新しいものごとにチャレンジしていく強い意欲が極めて重要です。

本入試においては、このような観点に立ち、将来大学や社会での新しい価値の創造を目指し、新しい時代を生き抜く素養と、北海道大学で学びたいという強い意志を持つ学生を選抜することを目的とします。

【フロンティア入試で求める学生像】

以下の項目のいずれかに該当する学生

- ・ 大学で課される課題を超えて自主性を育める基礎能力と意欲を有する人物
- ・ 国際的視点を有し、物理・化学・生物の枠を超えて生命科学の課題に主体的に取り組める学際的人物

【募集学科、募集人員】

学 科	募 集 人 員
生物科学科（高分子機能学専修分野）	3 名

※ 選抜の結果、合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は本学が実施する一般選抜（後期日程）の募集人員に加えます。

【出願資格・要件】

次に掲げる資格及び要件に該当する者

1. 資 格

次のいずれかの資格に該当すること。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を令和 8 (2026) 年 3 月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第 3 項の規定に基づき、令和 7 (2025) 年 4 月から令和 8 (2026) 年 3 月までに卒業又は卒業見込みの者
- (2) 高等学校又は中等教育学校を令和 7 (2025) 年 3 月に卒業した者及び学校教育法施行規則第93条第 3 項の規定に基づき、令和 6 (2024) 年 4 月から令和 7 (2025) 年 3 月までに卒業した者
- (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を令和 6 (2024) 年 4 月から令和 8 (2026) 年 3 月までに修了又は修了見込みの者

2. 要 件

次のすべての要件に該当すること。

- (1) 高等学校等で「数学Ⅲ」、「物理基礎・物理」及び「化学基礎・化学」のうち、「数学Ⅲ」を含む 2 つを履修している者
(理数科等にあつては、「理数数学Ⅱ」、「理数物理」及び「理数化学」のうち、「理数数学Ⅱ」を含む 2 つを履修している者)
※ 該当科目を学校設定科目で代替している場合は、その代替科目を履修している者を含みます。
※ 該当科目を履修した者と同等の学力を有していることを、在籍する（既卒者については卒業した）高等学校等が認め、個人評価書にその旨の記載がある者を含みます。
- (2) 合格した場合、入学を確約できる者

【選抜方法】

調査書、個人評価書、自己推薦書、適性試験及び面接の結果を総合して合格者を決定します。

第1次選考

調査書、個人評価書、自己推薦書により選考を行います。

第2次選考

第1次選考に合格した者に対して、適性試験を課し、面接を行います。

- ・適性試験：基礎的な知識及び技能の他、思考力及び判断力等を評価する。

適性試験では、前半（60分）で計算を主とする数学の基本問題、後半（120分）で数学及び理科（物理・化学）の論述問題を課す。出題範囲は以下のとおりとする。

< 共通問題 >

科目	出題範囲
数 学 150点	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C (数学Aは「図形の性質」、「場合の数と確率」、数学Bは「数列」、数学Cは「ベクトル」、「平面上の曲線と複素数平面」とする。)

< 選択問題 >

科目	出題範囲
数 学 50点	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C (数学Aは「図形の性質」、「場合の数と確率」、数学Bは「数列」、数学Cは「ベクトル」、「平面上の曲線と複素数平面」とする。)
物 理 化 学 250点	物理基礎及び物理 (「力学」、「波動」、「熱」、「電磁気」) 化学基礎及び化学

- ・面 接：主体的な行動を起こす力や新しいものごとにチャレンジする強い意欲、英語4技能、及び生命科学に対する情熱と準備状況等を評価する。

【第1次選考および第2次選考の科目等と配点】

第1次選考		第2次選考	
調査書 個人評価書	70点	適性試験	450点
自己推薦書	30点	面接	300点

(16) 工学部応用理工系学科（応用物理工学コース）

【趣旨・目的】

応用物理学は、物理の基本原理・法則の探求に加え、実社会に必要とされる技術の創出と開発、物理学的視点に基づいた新しい科学領域の創成など、革新的な知のフロンティア開拓を目指す学問です。これを学びさらに発展させるには、十分な基礎学力とともに、自然科学や人間社会に対する高い関心と柔軟な発想力が必要です。そのような素養を持った学生を選抜することを目的として、応用物理工学コースは、基礎学力、論理的思考力及び目的意識の高さを重視したフロンティア入試を実施します。

【フロンティア入試で求める学生像】

- ・物理学及び数学に関する十分な基礎学力があり、論理的思考能力を持つ学生
- ・自然界における物理現象の解明を志す学生
- ・人間社会に貢献できる新技術の創出に高い関心を持つ学生
- ・将来、応用物理学分野の研究者や技術者を目指す意欲のある学生

【募集学科、募集人員】

学 科	募 集 人 員
応用理工系学科（応用物理工学コース）	15名

※ 選抜の結果、合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は本学が実施する一般選抜（後期日程）の募集人員に加えます。

【出願資格・要件】

次に掲げる資格及び要件に該当する者

1. 資 格

次のいずれかの資格に該当すること。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を令和8(2026)年3月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき、令和7(2025)年4月から令和8(2026)年3月までに卒業又は卒業見込みの者
- (2) 高等学校又は中等教育学校を令和7(2025)年3月に卒業した者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき、令和6(2024)年4月から令和7(2025)年3月までに卒業した者
- (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を令和6(2024)年4月から令和8(2026)年3月までに修了又は修了見込みの者

2. 要 件

次のすべての要件に該当すること。

- (1) 高等学校等で「数学Ⅲ」及び「物理」を履修している者
(理数科等にあつては、「理数数学Ⅱ」及び「理数物理」を履修している者)
※ 該当科目を学校設定科目で代替している場合は、その代替科目を履修している者を含みます。
※ 該当科目を履修した者と同等の学力を有していることを、在籍する（既卒者については卒業した）高等学校等が認めた者を含みます（これに関する判断を記した高等学校等の文書を出願時に提出してください。）。
- (2) 合格した場合、入学を確約できる者

【選抜方法】

調査書、自己推薦書、適性試験及び面接の結果を総合して合格者を決定します。

第1次選考

調査書、自己推薦書により選考を行います。

第2次選考

第1次選考に合格した者に対して、適性試験を課し、面接を行います。

- ・適性試験：基礎的な知識及び技能の他、思考力及び判断力等を評価する。
適性試験では、前半（60分）で計算を主とする数学の基本問題、後半（120分）で数学及び理科(物理)の論述問題を課す。出題範囲は以下のとおりとする。

<共通問題>

科目	出題範囲
数 学 100点	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C (数学Aは「図形の性質」、「場合の数と確率」、数学Bは「数列」、数学Cは「ベクトル」、「平面上の曲線と複素数平面」とする。)

<選択問題>

科目	出題範囲
数 学 100点	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C (数学Aは「図形の性質」、「場合の数と確率」、数学Bは「数列」、数学Cは「ベクトル」、「平面上の曲線と複素数平面」とする。)
物 理 250点	物理基礎及び物理 (「力学」、「波動」、「熱」、「電磁気」)

- ・面 接：物理学の能力、コミュニケーション能力、目的意識の高さ等を問う。

【第1次選考および第2次選考の科目等と配点】

第1次選考		第2次選考	
調査書	90点	適性試験	450点
自己推薦書	10点	面接	50点

(17) 工学部機械知能工学科

【趣旨・目的】

機械工学は我が国における産業、経済発展に多大な貢献をしています。機械知能工学科では、自動車・航空宇宙産業における機械と情報技術の融合や、高齢化社会を見据えた医療福祉産業の振興、また、再生可能エネルギーなどによる新たなエネルギーシステムの構築、さらに、これらを実現するために必要な材料やロボット技術の開発など、新しい技術創成に貢献できる人材育成を行っています。そこで、本入試では、機械知能工学科の4本の柱である「航空宇宙」、「エネルギー」、「材料」、「医工学」に係る新技術創成を切り拓くフロンティア精神にあふれる人材を募集します。数学、物理、化学を中心とする適性試験と国際性やグローバル的視点の素養を問う面接により評価し選抜を行います。

【フロンティア入試で求める学生像】

- ・「航空宇宙」、「エネルギー」、「材料」、「医工学」に関わる新たな技術創成を通して、国際的な産業振興に貢献する意欲がある学生
- ・地球環境と工学技術の発展との関係を考慮し、環境にやさしい社会を作るための新しい技術創成に意欲のある学生
- ・様々な物事をグローバルに捉えて、その物事の問題点を明確にし、解決に向けた方策を選定し、自ら中心となりリーダーシップを持って行動できる学生

【募集学科、募集人員】

学 科	募 集 人 員
機械知能工学科	5 名

※ 選抜の結果、合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は本学が実施する一般選抜（後期日程）の募集人員に加えます。

【出願資格・要件】

次に掲げる資格及び要件に該当する者

1. 資 格

次のいずれかの資格に該当すること。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を令和8(2026)年3月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき、令和7(2025)年4月から令和8(2026)年3月までに卒業又は卒業見込みの者
- (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を令和7(2025)年4月から令和8(2026)年3月までに修了又は修了見込みの者

2. 要 件

次のすべての要件に該当すること。

- (1) 高等学校等で「数学Ⅲ」及び「物理基礎・物理」を履修し、かつ「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」、「地学基礎・地学」のうち少なくとも1つを履修している者（理数科等にあっては、「理数数学Ⅱ」及び「理数物理」を履修し、かつ「理数化学」、「理数生物」、「理数地学」のうち少なくとも1つを履修している者）

※ 該当科目を学校設定科目で代替している場合は、その代替科目を履修している者を含みます。

- (2) 合格した場合、入学を確約できる者

【選抜方法】

調査書、個人評価書、自己推薦書、適性試験及び面接の結果を総合して合格者を決定します。

第1次選考

調査書、個人評価書、自己推薦書により選考を行います。

第2次選考

第1次選考に合格した者に対して、適性試験及び面接を行います。

- ・適性試験：数学、物理、化学に関する基礎学力を問う。

適性試験では、前半（60分）で計算を主とする数学の基本問題、後半（120分）で数学及び理科（物理・化学）の論述問題を課す。出題範囲は以下のとおりとする。

<共通問題>

科目	出題範囲
数 学 150点	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C (数学Aは「図形の性質」、「場合の数と確率」、数学Bは「数列」、数学Cは「ベクトル」、「平面上の曲線と複素数平面」とする。)

<選択問題>

科目	出題範囲
数 学 100点	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C (数学Aは「図形の性質」、「場合の数と確率」、数学Bは「数列」、数学Cは「ベクトル」、「平面上の曲線と複素数平面」とする。)
物 理 150点	物理基礎及び物理 (「力学」、「波動」、「熱」、「電磁気」)
化 学 50点	化学基礎及び化学

- ・面 接：意欲、目的意識、協調性及びコミュニケーション能力等を問う。

【第1次選考および第2次選考の科目等と配点】

第1次選考		第2次選考	
調査書 個人評価書	70点	適性試験	450点
自己推薦書	30点	面接	200点

(18) 工学部環境社会工学科（環境工学コース）

【趣旨・目的】

私たちの豊かで便利な生活は健全な環境があってこそ成立します。環境工学コースでは環境をどのように評価するか、そしてどのように保全し、より豊かなものにするのかを学び、さらに研究を通じて理解を深めていきます。それらは、例えば隠れた環境問題を見出し解決への方策を提示する能力、革新的な環境浄化技術、省エネルギー技術、資源循環技術です。環境問題の解決には、広い分野の先端技術と知識を高度に統合する必要があります。環境に興味をもち、将来、国内外でリーダーやスペシャリストとして活躍できる技術者や研究者を目指す学生を、学力試験の結果のみならず意欲や熱意を評価し選抜することを目的としています。

【フロンティア入試で求める学生像】

- ・数学、理科、英語の基礎力があり、広い分野の技術に興味を持っている学生
- ・知的好奇心が旺盛で、異分野横断研究を推進する行動力のある学生
- ・地球規模や地域の環境問題の解決に貢献したいと思っている学生
- ・生活環境の改善に貢献したいと思っている学生
- ・北海道大学工学部環境社会工学科環境工学コースを第一志望としている学生

【募集学科、募集人員】

学 科	募 集 人 員
環境社会工学科（環境工学コース）	5 名

※ 選抜の結果、合格者が募集人員に満たない場合、その欠員は本学が実施する一般選抜（後期日程）の募集人員に加えます。

【出願資格・要件】

次に掲げる資格及び要件に該当する者

1. 資 格

次のいずれかの資格に該当すること。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を令和 8 (2026) 年 3 月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第 3 項の規定に基づき、令和 7 (2025) 年 4 月から令和 8 (2026) 年 3 月までに卒業又は卒業見込みの者
- (2) 高等学校又は中等教育学校を令和 7 (2025) 年 3 月に卒業した者及び学校教育法施行規則第93条第 3 項の規定に基づき、令和 6 (2024) 年 4 月から令和 7 (2025) 年 3 月までに卒業した者
- (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を令和 6 (2024) 年 4 月から令和 8 (2026) 年 3 月までに修了又は修了見込みの者

2. 要 件

合格した場合、入学を確約できる者

【選抜方法】

調査書、個人評価書、自己推薦書、適性試験及び面接の結果を総合して合格者を決定します。

第 1 次選考

調査書、個人評価書、自己推薦書により選考を行います。

第2次選考

第1次選考に合格した者に対して、適性試験及び面接を行います。

- ・適性試験：基礎的な知識及び技能の他、思考力及び判断力等を評価する。
適性試験では、前半（60分）で計算を主とする数学の基本問題、後半（120分）で数学及び理科（物理・化学）の論述問題を課す。出題範囲は以下のとおりとする。

< 共通問題 >

科目	出題範囲
数 学 150点	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C (数学Aは「図形の性質」、「場合の数と確率」、数学Bは「数列」、数学Cは「ベクトル」、「平面上の曲線と複素数平面」とする。)

< 選択問題 >

科目	出題範囲
数 学 物 理 化 学 300点*	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C (数学Aは「図形の性質」、「場合の数と確率」、数学Bは「数列」、数学Cは「ベクトル」、「平面上の曲線と複素数平面」とする。)
	物理基礎及び物理 (「力学」、「波動」、「熱」、「電磁気」)
	化学基礎及び化学

※ 選択問題では、以下 a～b のいずれかの組み合わせで問題を選択し、解答する。

- a …… 数学3問の内から1問（100点）、物理3問と化学3問の計6問の内から4問（200点）
- b …… 数学3問の内から2問（200点）、物理3問の内から1問（50点）、化学3問の内から1問（50点）

- ・面 接：これまでの活動や勉学への意欲、大学生活への抱負、将来の目標などを問いながら、主体的な行動を起こす力や新しいものごとにチャレンジする強い意欲を評価する。さらに、調査書、個人評価書、自己推薦書の内容とコミュニケーション能力を評価する。

【第1次選考および第2次選考の科目等と配点】

第1次選考		第2次選考	
調査書	60点	適性試験	450点
個人評価書		面接	
自己推薦書	40点		200点